



政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることのないように

気候野心 サミット

気候変動対策待ったなし 温暖化から地球沸騰時代に変質

岸田首相発言出来ず

国連本部で9月20日「気候野心サミット」が開かれた。グテレス国連事務総長が主催し、気候危機打開の取り組みを加速させるのが目的でした。グテレス事務総長はいまや「地球沸騰時代」に突入したと警鐘を鳴らし、各国に対応の前倒しを求めています。グテレス事務総長は会議の冒頭「化石燃料から莫大な利益を得る既得権益者たちによる対応の遅れ、圧力、むき出しの強欲によって失われた時間を取り戻す時だ」と述べ猶予する時間は無いと訴えた。このサミットは気候変動への取り組みで先行し、行動する者の代表として、国・地域・自治体・国際機関のトップなど約40人が発言者として招かれた。岸田首相は参加して演説する予定で準備していたが発言をさせてもらえなかった。政府はスケジュールの調整がつかなかったのではないかと釈明しているが、国連筋は「基準を満たさなかった」と明かしている。5月のG7首脳宣言で石炭火力発電所からの撤退期限が議

長国日本の強い反対で合意とならなかった事などから、発言者としてふさわしくないのは当然でしょう。昨年も、一昨年不名誉な化石賞を日本政府に突きつけられている状況は変わっていない。

この会議に先立ちG20の国・地域にサミットの招待状を送付した。その中でエネルギー事情などそれぞれの国の高い野心を掲げた具体的な計画を持ち寄る指導者のみにサミットでの発言権を与えると示唆していた。

軍事費概算要求 9166億円増額

政府は昨年軍事費を前年比で1兆4千億円増につづき今年も9166億円増の7兆7385億円計上した。昨年岸田政権がまとめた5年間で43兆円の軍事費を確保するとして、今年の通常国会で予算措置を決めたことに基づき、大幅な増額となっている。ロシア侵攻等による食料、燃料等の値上がりにより円安も加わり、国民生活は厳しくなる一方に

も拘らず軍事費だけは優先的に予算をつぎ込む政策を続けようとしている。この中で敵基地攻撃能力に繋がる長距離ミサイルの開発経費、敵基地攻撃とミサイル防衛を一本化させる統合防空ミサイル防衛、極超音速滑空弾を迎撃する迎撃ミサイルの開発、陸海空自衛隊を一元的に指揮する常設の「統合司令部」の新設、弾薬の備蓄増及び弾薬庫の新設、新たに5カ所の司令部の地下化、イタリア、イギリスとの次期戦闘機の共同開発を管理する機関への拠出などにあてられている。増額予算でも足りない部分は新規後年度負担として7兆8787億円にもなり、軍事費ローンが膨らんで、暮らしに直結する予算を圧迫している。



定例スタンディング

(H・U)

(9月23日)

沈黙は現状追認に

行動が未来を切り開く

まずは選挙で示そう

悲劇を繰り返させてはならない

地滑り 駅も列車も海へ

9月1日の新聞・TV各社は丁度百年前に起きた関東大地震の特集報道した。

1923年(大正12年)午前11時58分、マグニチュード7.9の大地震が関東一帯を襲い、東京下町を中心に家屋の倒壊、台風之余波による猛火に巻きこまれる等により10万人余の命を失いました。まさに大自然災害でした。

震源地は神奈川県西部。地震による地滑りで小田原市にあつた根府川駅のプラットホームと停車中の列車は海に押し流され沈んだ。丹沢山地などで土砂災害は死者・行方不明945人以上とのこと。



関東大地震から百年 減災対策を

日本はフィリピン海プレートと北米プレートが大陸プレート下に沈み込むところにあり、地震大国の宿命を負っている。哲学者が「天災は忘れた頃にやってくる」と災害の教訓

を語っている様に痛ましい災害から目を離さない対策が必要だと思っている。

規制緩和で都市部の建物は高層ビルが乱立し、東京五輪・大阪万博開催のために海を埋立てた地にタワーマンションが建ち始めた。地盤が液状化して建物の沈下、水道などライフラインが途切れてしまうなど100年前にはなかった新しい形の災害で多数の死傷者が出るのではないかと危惧している。都市の未来を見据えた対策を作り出してほしい。



朝鮮人虐殺 史実を直視

関東大地震は防災という観点以外に震災の混乱や不安にふるえる中で朝鮮人が6000人以上虐殺されるという大量殺人が起きた。

未曾有の混乱の中、「朝鮮人が放火した」「井戸に毒を入れた」などのデマが信じられ、広い地域で虐殺が行わ

れた。震災後何が起きたかを検証する報道や映画も制作されている。虐殺事件の一つである「福田村事件」を取り上げた映画が厚木でも上映されているとの話を聞き、さっそく映画館に足を運んだ。

大スクリーンで、大音量の映画館で見られる映画は、やはり迫力があつた。



福田村事件は地元でも知らされていない

福田村は現在の野田市。私の母の実家があり、父が青年時代を送った所。東武野田線で大宮駅を出て、しばらく行くと、電車の両側に広々とした畑が見渡せるようになる。そこからが野田市だ。日本の農村の原風景。小中学生の毎年夏休みには墓参りに帰っていた。むろん福田村事件など知らなかったし、うわさも聞いたことがなかった。

虐殺の現場 次世代につなげる

震災の5日後、香川県から福田村を訪れていた薬売りの行商団15人の内、幼児3人と妊婦を含む9人が無残に殺された。行商団は讃岐弁で話し

ていたことで朝鮮人と疑われ殺害されたのだ。事件現場で「私たちは日本人だ、朝鮮人なら殺していいのか」と声の限り言尽くしたのに、集まってきた在郷軍人、自警団、村民に日本刀・鎌・竹やりで殺された。利根川に逃げた幼児を抱えた婦人は「お願いです、どうか、この子だけは」と泣き叫ぶが、竹やりで腹を刺され、「おめいらみんな鬼だ」と言つて幼児と一緒に利根川に没していく。30分におよぶ虐殺シーンはこの映画の最大のクライマックスで、張り詰めた緊張感で鑑賞した。

福田村事件から学ぶ

福田村事件の加害者になった村民たちは震災後のデマ、差別意識、偏見に踊らされる前は誠実でやさしい人間だった。しかし、ためらいもなく人を殺した。人間に対し、差別、排除の認識を持つと多くの人が残酷な人間にもなってしまう。それが怖い。事件の背景には、戒厳令が施行され、新聞は正しい情報を発信できなかつた政治情勢があつたと思う。(近藤)